

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①共通教科の基礎学力の定着を図るとともに、学習内容を精選し、多様な進路選択に対応できる学力の向上を図る。 ②言語活動の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出すとともに、達成感を持たせ、主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自信と自己肯定感を育む。	①基礎学力の定着と生徒の進路実現に結び付く教育課程の計画的な実施を図る。 ②わかる授業を実践し、生徒の学習意欲と主体的に学ぶ姿勢を高め、自己肯定感を育む。	①生徒の進路希望や実態を把握しながら見直しを図るとともに、生徒のニーズや実態に則した教育課程の研究を進める。 ②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 ③カリキュラム・マネジメントの視点からの授業づくりを工夫するとともに、地域の学校外の機関や県立高校生学習活動コンソーシアムを活用した授業づくりを推進する。	①生徒の進路希望や実態に則した教育課程の見直しが図れたか。 ②生徒による授業評価の各項目の評価が向上したか。(前年度比) ③複数の教科等の連携を図りながら授業をつくることのできたか。また、学校外の機関を活用した授業づくりができたか。	①生徒のニーズや実態に則した教育課程の研究を進めた。 ②第Ⅱ期の生徒による授業評価において、7項目すべて第Ⅰ期より向上した。 ③カリキュラムマネジメントの視点からの授業づくりの工夫ができてきている。	①引き続き、生徒の進路希望や実態を把握しながら見直しを図る必要がある。 ②生徒による授業評価の集約ができる次第、結果の分析および課題とその改善方法を検討する。 ③複数の教科、科目で連携を図り授業をつくることのできている。感染症予防をしながら、学校外の機関を活用した授業づくりを実施できた。	①生徒の実態に即した教育課程研究を継続的に進めているが、本校のミッションである普通科と総合ビジネス科併置という視点から、今まで以上の取組みを期待する。 ②生徒による授業評価結果は一定程度評価できる。今後は中長期的視点から本校としての授業スタイルを目指すのか検討してもらいたい。	①生徒のニーズや実態に則した教育課程の研究を進めるとともに、令和4年度からの教育課程の作成を行った。今後は選択科目について検討が必要である。 ②カリキュラム・マネジメントの視点からの授業づくりについて、複数の教科・科目が連携して授業づくりができた。さらに教科・科目間の連携を図り、授業づくりを進める必要がある。	①令和4年度に向けて、生徒の進路希望や実態を把握しながら見直しを図るとともに、両科併置の視点から、教育課程の編成に努める。 ②校内研究授業や授業研究会を継続実施し、教員一人ひとりがR P D C Aによる授業改善に努めるとともに、さらに教科・科目での連携を進める。また、地域の学校外の機関や県立高校生学習活動コンソーシアムを活用した授業づくりを推進する。 ③I C T機器や通信環境等が充実したことから、教科・科目で共用できる授業スライドや動画などの教材研究、作成を図る。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的指導体制を充実させる。 ②ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校行事や部活動を通して、社会で活躍できる健全な人材を育成する。	①頭髪・服装等の身だしなみを整え、正しい服装で登校ができるように指導を継続する。積極的な挨拶を実践する。 ②日常の学校生活だけでなく、学校行事や部活動を活性化させ、それらの活動を通して基本的な生活習慣やマナーを身に付けさせる。	①朝の登校指導や交通安全教室を行い、頭髪・服装指導の実践により正しい服装への定着や自転車の乗り方を指導し、安全な登校を行う。 ②生徒が自主的・自発的に活動できる環境・体制の構築を全職員で目指す。	①生徒の実態に合わせた指導が行えたか。また、遅刻の回数や頭髪指導件数を減らし、自転車による事故やトラブルを回避することができたか。 ②学校行事後のアンケート結果から、生徒の充実感・満足感が高まったと読み取れるか。部活動加入率及び継続率を保持、向上できたか。	①感染症対策のため、朝の登校指導が健康観察票の回収と手洗い指導が中心になった。年度の後半になり、授業前に身だしなみ指導を実施した。 ②コロナ禍から行事が計画通りにできなかった。その中で形を変えて実施した文化部発表会については、概ね満足と評価できた。部活動の状況は横ばいである。	①遅刻及び頭髪・服装指導については、学年での指導が中心になった。遅刻については、改善が難しく年度末に遅刻指導を作文指導から登校指導に切り替えた。 ②行事についてはこの状況の中でもできることを模索し、安全を第一に実施案を作成する。部活動については、活動のアピールの機会を増やす。	①特色である「ビジネスマナー」を軸としながらも、コロナ禍で従来と違った指導を考えることができたと思うが、学校生活が完全に戻るまで時間がかかるので継続して検討してもらいたい。また、生徒の不調等を確認するために、積極的な声掛けをお願いしたい。 ②今後も学校行事等で制約を受けることが予想されるので、あらかじめいくつかのパターンを想定するとともに、生徒の自己肯定感を育んでもらいたい。	①感染症対策や健康観察票の継続により、校内で感染者はいなかった。生徒の遅刻や欠席が多いので、改善する必要がある。 ②行事が中止や延期、大幅な変更をせざるを得ない状況ではあったが、実施できた行事については、一定の成果があった。今後の状況変化が読めないことから、どこまで生徒の意向を汲めるかが大きな課題である。部活動加入率は年度初めの休校の影響からやや低迷した。部員数の増加は今後も大きな課題である。	①感染症対策は、引き続き実施する。来年度は4月から遅刻指導を実施し、遅刻者を減少させる。自転車指導については交通安全指導も含め実施する。カウセリングや教育相談も継続的に、生徒の心ケアを行う。 ②行事については、すぐに通常に戻ることはないと考えられるので、何ができるのかを明確にして計画する必要がある。その際、状況変化に柔軟に対応すること、生徒の意向を最大限汲むことを念頭に置く必要がある。部活動加入率を上げることは厳しいが、学校説明会から入学後も含めて部活動P Rをしていくことと、各部で継続できる活動を考える必要がある。
3	進路指導・支援	①確かな勤労観や職業観を身に付けさせるため、成長段階に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。 ②生徒の希望する進路を実現するため、教科指	①確かな職業観や勤労観を養うため、成長段階を踏まえたキャリア教育を実践する。 ②各科それぞれ生徒のニーズに応じた充実した学びと進路実現	①I C Tの活用を踏まえた早期の情報提供や説明会、外部講師の活用などを通して、生徒・保護者の進路意識の啓発を図る。 ②生徒の希望に応じて進路関係	①説明会の満足度（生徒・保護者）はどうであったか。 ①情報の獲得や進路意識の向上が見られたか。 ②希望する上級学校や就職先に	①ガイダンスは科ごとや体験型から実演型へ変更して実施した。高大連携は調整がつかず見送った。 ②説明会の回数を確保するとともに面接や作文の指導に力を入れ個々の	①より一層I C Tを活用し効果的に情報発信を行うとともに、分散実施を踏まえて計画する。教室での視聴という形態も視野に入れる。 ②今後、進学・就職ともに激化が予	①コロナ禍で入学(入社)試験のスタイルも変化しており、オンライン面接等の指導を充実させることも必要である。 ②求人動向が変化してい	①コロナ禍でもできる限り進路行事を確保できた。Google Classroomを活用し、生徒への連絡や調査を省力化した。また、進学、就職ともにオンライン面接では、家庭での接続が不安な生徒に学校で対応した。 ②金融機関から新たな求人をお願いした。進路結果は、就職数は66名で総合ビジネス科が多	①アンケートを精査し、内容や実施方法をさらに改善する。 ①進学でも就職でも今後はオンラインが活用されると予想されるので、オンラインでの面接の要領を新たに指導する必要がある。 ②社会の状況が大きく変化中、企業や業界の状況についても考慮に入れ、生徒の指導にあ

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	導と連携した進路指導の充実を図る。	を目指す。	行事を計画的に実施し、生徒に振り返りの機会を設けキャリアプランニング能力を育成する。	進むことができたか。	生徒に対応した。 ②金融や事務職での内定が増加した。総合型、公募でも大学に合格した。	想されるので、適性検査や一般常識、新たな受験制度への対応等教科との連携を図る。	る状況で、生徒のニーズや世の中の変化に対応できるように、校内のキャリア教育研修を充実させてもらいたい。	く、進学では大学が32名で普通科が多かった。大学進学は前年度より減少したが、近年の難化傾向と受験方法が新しくなったことも理由の一つと考えられる。	たる。 ②新たな受験方法に対応できるように、生徒の学校生活に対する意識の変化をめざした指導をする。
4	地域等との協働 ①地域との相互交流を進め、地域に根ざした学校づくりを推進する。 ②様々な機会を活用し、広報活動の充実を図り、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。	①地域のイベントや行事ごとなどには積極的に参加をし、地域に根差した学校作りを行っている。 ②学校説明会・中学校訪問など様々な機会を活用し、積極的に広報活動を展開する。本校ならではの取り組みや特色について、情報発信を充実させる。	①清掃ボランティアや公開講座だけでなく、他にも地域との交流機会を増やしていく。 ②学校説明会・中学校訪問、及び地域連携事業の展開と広報活動を改善し、HPを含めたPR活動の充実を図る。出張授業や訪問しての説明会などを今まで以上に積極的に実施する。 ②コミュニティ・スクールでの意見を、生徒が充実した学校生活を送れるよう反映させていく。	①今まで参加したことがないイベントや行事に参加交流することができたか。 ②学校説明会・及び地域連携事業の参加率は上がったか(前年度比)。出張授業や訪問しての説明会の回数は増えたのか。(前年との比較)また、入学志願者数に反映されたか。 ②コミュニティ・スクールが円滑に進行し、意見が生徒の学校生活などに反映されているか。	①感染症対策のため、清掃ボランティアへ参加することができず、夏の公開講座は中止とした。冬の開催を目指して募集をかけたが、希望者が集まらず実施に至らなかった。 ②学校説明会・体験授業など、HPを活用し、広報活動を積極的に行った。学校説明会や体験授業についてアンケート結果は、良い反応であった。 ②すべての会を書面開催としたため、本校の状況に関する情報提供量が少なかったが、生徒の活動をDVDにまとめて情報を発信した。	①引き続き感染症対策をしっかりと実施し、参加できなかった地域のイベントなどに積極的に参加する。 ②出張授業を一度も実施できなかった。訪問による学校説明会の実施回数も昨年度に比べて少なかった。可能な限り、中学校に出向き、本校のPRを積極的に行う。 ②感染症対策を講じて、可能な限り対面による開催を目指す。その一方で、書面開催も視野に入れ、今年度の経験を活かし、効果的に情報提供を行う。	①例年どおりの活動を実施するのが難しいが、引き続き取り組んでもらうとともに、新しい方法も検討してもらいたい。 ②外部への情報発信は重要であるが、入学者選抜における志願者数の現状を踏まえて、本校の魅力や課題、目指すべき方向性を学校全体で共有してもらいたい。また、地域自治会や隣接する中学校との連携を今後とも積極的に継続してもらいたい。	①今年度は、感染症が拡大したため、さまざまな制限がかかり、地域のイベントや行事には参加ができなかった。 ①公開講座に関しても、夏休み期間に設定したが中止になり、再度12月に設定をしたが、参加者がなく、結局実施しなかった。 ②学校説明会に関しては、県から指示があり、9月以降の実施となった。感染症対策の視点から、WEBからの申込みとし、定員を定め、午前と午後に分けて行った。密にならないよう、座席の間隔もあけ、できるだけ短時間での実施となった。 ②コミュニティ・スクールに関しては年間をとおして書面開催とした。学校の状況を分かりやすく知らせるために、DVDを作成した。今後も様々なご意見をいただき、反映させていく。	①感染症対策を徹底し、来年度は地域のイベントや行事に参加する。また、公開講座に関しても、感染症対策を徹底し、実施する。 ②学校説明会に関して、アンケート結果は概ね良好ではあったが、説明会の内容が、ここ数年同じような形式になっている。来年度は、本校の方向性等を分かりやすく伝えられるように、少し形を変えて、PR活動の充実を図る。また、今年度出張授業は一度も実施できず、訪問しての説明会の回数も少なかったが、積極的に実施する。 ②実施形態を工夫して、可能な限り対面による実施をめざし、学校の情報を分かりやすく伝えるとともに、意見をいただき学校運営に活かす。
5	学校管理 学校運営	①地域と連携した防災訓練を実施し、地域全体で連携した安全な環境づくりに取り組む。 ②働き方改革を推進し、普段から職員間のコミュニケーションの充実を図り、未然に事故・不祥事を防ぐことのできる風通しのよい職場環境の構築に努める。	①DIG訓練や津波合同避難訓練をとおして、地域や地域と連携し、危険に対する理解を深め、災害発生時・発生後の対応を身に付ける。 ②組織的な取組で業務の円滑化を図り、事故不祥事の未然防止に向けた研修実施や互いに声を掛け合う職場環境づくりに努める。	①DIG訓練や避難訓練により学校内外の環境について知ることができたか。また、災害時の対処方法や危険に対する理解が深まったか。 ②組織的に業務に取り組み、職員・全校生徒が情報を共有できたか。また、事故不祥事を未然の防止できたか。	①感染症対策のため、計画通り実施できなかったが、地震・津波、火災の避難訓練は形式を変更して机上でのシミュレーションとした。なお、職員の防災研修は計画通りに実施した。市と協定を結び、風水害避難場所として自治会と現行の防災体制の見直しを行った。 ②不祥事防止研修会を机上研修として実施した。また、入学者選抜に関して、マニュアルを全面的に見直し、事故防止に努めた。	①防災訓練はもとより生徒・職員の防災意識の向上が重点課題であり、実際に動いた訓練でないと災害への危機感が高まらないのは否めない。クラスごと等、実施形態を考えた計画を立て必要がある。 ②不祥事防止会議や研修会を通して、職員の意識向上を図り、事故を未然に防ぐことができたが、今後も継続的に実施する。	①本件の立地条件を考えると、防災意識を教職員、生徒、地域住民が共通認識を持つことが重要である。今後もさらに地域と連携して、丁寧な防災訓練を実施してもらいたい。 ②不祥事防止については会議や研修会等、折に触れ職員に指導を行っているが、今後とも未然防止のために、継続的に実施していくことが必要である。	①津波・火災の避難訓練、帰宅地別の集合訓練は机上でのシミュレーション訓練となり、避難経路に関しては生徒も熟知できた感があったが、実際に動いて避難しなければ分からないことが多々あることが課題である。 ②不祥事防止については、管理職からの指示・伝達や研修の成果が表れた。年間を通して不祥事や事故は防ぐことはできた。	①職員・生徒の防災意識の向上の継続のためには、やはり実際に避難経路を使用しての現地訓練が必要であり、学年ごと、クラスごとの実施も視野に入れて検討する。帰宅地別の集合訓練も、帰宅地別班によって日を変えて集合する等、実施方法を工夫する。また、地域や、合同訓練は行わなくなった近隣中学校とも、情報交換等とおした連携を今後も継続していく。 ②業務の多忙化、職員の若年化という背景で、不祥事・事故を防止するために研修会をはじめ、職員同士の声かけも促し、職員全体での事故防止の意識を高めていく。